

声を力に
枚方市の未来を守る

泉 大介



大阪維新の会 枚方市議会議員団 代表に就任

令和7年5月より大阪維新の会 枚方市議会議員団の代表を務めることとなりました。
市民の皆さまの声を、まちのしくみや制度という「かたち」にすること。
その責任を胸に、現場の課題に誠実に向き合い、根本から動かすしくみをつくってまいります。
議会の中でも外でも、立場や考えの違いをこえて語り合える場を整え、納得感のあるプロセスを通じて、枚方の未来に役立つ制度づくりを進めていきます。
これからも、皆さまのご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

日本維新の会「12本の矢」政策協議 自民と連立政権合意、高市新総理誕生へ

高市新総理の誕生により、維新と自民の連立政権が本格始動します。
この合意は、単なる政権の枠組みではなく、未来を切り拓く「12本の矢」による本気の改革設計図です。
物価高、社会保障、憲法改正、教育、エネルギー、安全保障—あらゆる分野にわたる抜本的な制度改革を、覚悟をもって前に進めるための合意です。ここに、維新が放つ「12本の矢」の全貌をお示しします。

1. 経済財政政策

・ガソリン税廃止や電気・ガス補助で物価高対策を即実施。

- ・食品消費税ゼロ、給付付き税額控除の導入。
- ・政府効率化局で行政の無駄を徹底排除。

2. 社会保障政策

- ・医療・年金・介護の抜本改革。
- ・高齢者定義の見直し、公的・民間保険の再設計。
- ・医療費の公平負担と病院機能の強化。

3. 皇室・憲法・家族制度

- ・皇位継承の安定化、憲法9条改正へ条文起草。
- ・緊急事態条項の整備、旧姓使用の法制化。

4. 外交安全保障政策

- ・長射程ミサイル・潜水艦整備で抑止力強化。
- ・自衛隊の国際標準化、装備移転ルールの見直し。

5. インテリジェンス政策

- ・国家情報局・対外情報庁の創設。
- ・スパイ防止法制と情報要員育成機関の整備。

6. エネルギー政策

- ・原発再稼働と次世代炉開発。
- ・地熱・海洋資源など国産エネルギーの活用。

7. 食料安保・国土政策

- ・食料安全保障への投資促進。
- ・メガソーラー規制で国土保全。

8. 経済安全保障政策

- ・南西諸島の海底ケーブル強靱化で通信インフラを守る。

9. 人口・外国人政策

- ・外国人比率の抑制と制度悪用の防止。
- ・外国資本による土地取得の規制強化。

10. 教育政策

- ・高校・給食の無償化、保育料軽減。
- ・大学の国際競争力強化と研究費拡充。

11. 統治機構改革

- ・副首都構想で首都機能を分散、危機管理を強化。

12. 政治改革

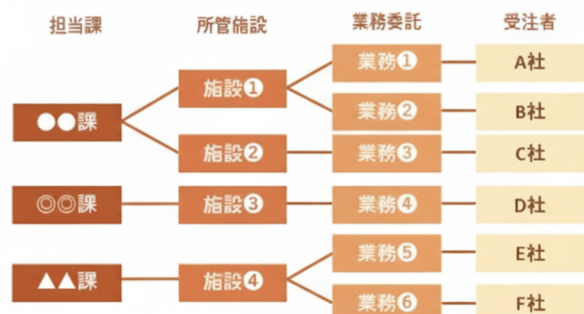
- ・企業団体献金の廃止、議員定数1割削減。
- ・選挙制度の抜本見直し。

【令和7年6月一般質問】 持続可能な公共施設マネジメントについて

枚方市では、公共施設の老朽化と財政難が進行する中、サービスの質を維持するための効率的な維持管理が急務となっています。「包括施設管理」は、複数施設を一括で管理することで業務の標準化や予防保全を図り、財政負担の軽減とサービスの質の両立を目指す制度ですが、2020年から検討課題として位置づけられながらも、制度設計の方針や骨子が市民に共有されないまま、検討が長期化しています。

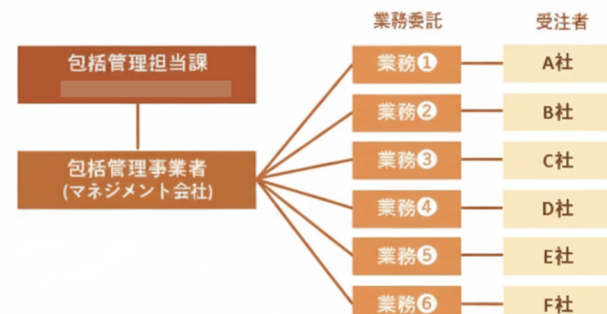
これまでの管理体制

課ごとや施設ごとに点検・清掃・警備など業務委託契約を締結



包括管理業務の体制

包括管理担当課とマネジメント会社が業務委託契約を締結し、契約を1本化



【要望】包括施設管理は、行政の役割を再定義し、民間との連携を再構築する制度です。単なる委託の技術論ではなく、「なぜ今、どのような制度にするのか」という設計思想を明確に言語化し、市民と共有することが不可欠です。「検討は進んでいる」という言葉が形式的な繰り返しに終わらず、実質的な制度構築へとつながるよう、検討の中身と価値判断の優先順位を明示することを強く求めました

【令和7年9月一般質問】 地域の情報、ちゃんと届いていますか？

自治会の加入率は現在約6割。残りの4割の市民には、地域の情報が制度的に届かない状態が続いており、災害時の助け合いや地域活動の停滞につながる懸念があります。また、担い手不足や高齢化により、回覧板や配布物の仕分けなど運営の負担が増し、情報共有が属人的になっている地域もあります。こうした中、LINEやGoogleサイトなどを活用した「ICT化」による情報共有の仕組みが注目されています。枚方市でも推進員の育成研修が始まっていますが、導入状況には地域差があり、支援のあり方が問われています。

【要望】自治会加入の有無にかかわらず、すべての市民に地域情報が届く制度設計が必要です。ICTの活用は、役員の負担軽減や情報共有の効率化、若年層の参加促進に有効であり、地域活動の持続可能性を高める手段です。市には、地域の実情に応じた制度設計と運用支援の強化を求めます。具体的には、未加入者への情報アクセスの保障、ICT人材の育成支援、地域間格差の是正、そして地域が主体的に情報発信できる環境整備など、制度と支援の両面からの取り組みを進めていただきたいと思います。

本紙に掲載している質問・質疑・意見は枚方市議会で泉が発言したものの要旨です。

市政に関する
お問い合わせ

大阪維新の会 枚方市議会議員団
枚方市大垣内町2-1-20 枚方市役所本館4階

072-841-1221(代) info@izumi-daisuke.net

泉 大介 プロフィール

大阪維新の会 枚方市議会議員団 代表
R7年度：建設環境常任委員、枚方寝屋川消防組合議会 副議長
山之上幼、山之上小、村野中、府立西野田工高、大阪工業大学卒
高校時代はカヌー競技で国体出場。おきのえらぶ島観光大使
(有)ラッププロモーション所属【歌手：DiceK】
東香里元町在住、家族：妻、子、ミニピン、イタグレ

【令和7年6月一般質問】 都市型水害、あなたのまちにも迫っています

令和7年8月、枚方市では1時間に68mmの豪雨が観測され、計画対応雨量(54mm)を大きく超過。市内で道路冠水や床下浸水が発生し、都市型水害のリスクが顕在化しました。

課題整理

- 冠水情報の収集体制が未整備
 - 冠水は浸水の前兆であり、危機管理判断に活かすべき重要情報。
 - 一部アンダーパスでは監視システムが稼働しているが、全体的な情報収集体制は未整備。
- 突発的豪雨への資材対応力の不足
 - 吸水性土のう・水囊などの簡易資材は補助対象外。
 - 土のう提供は事前予測が前提で、突発的豪雨には対応が間に合わない。
- 雨水ポンプ場の運用と初動体制
 - 自動運転や職員配置による対応は進んでいるが、さらなる迅速化と予測精度向上が必要。
- AI予測技術の活用可能性
 - 小規模水路の水位変化を予測するAIモデルの実証が進み、避難判断や排水機稼働に活用可能。

【要望】

- 冠水情報の収集体制の構築
 - 住民通報やSNS連携など、即応性ある情報収集スキームを制度化し、行政判断に接続。
- 資材補助制度の拡充と分散型備蓄体制の設計
 - 吸水性土のう・水囊など消耗品も補助対象とし、自治会・自主防災組織単位での備蓄支援を推進。
- AI予測モデルとの制度接続の検討
 - 冠水の兆候を早期に捉え、避難判断に必要な時間を確保する仕組みの構築。

突発的豪雨は予測が難しく、対応の遅れが命に関わる事態を招きかねません。だからこそ、制度と技術を接続し、現場の兆候を行政判断に活かす仕組みづくりが急務です。